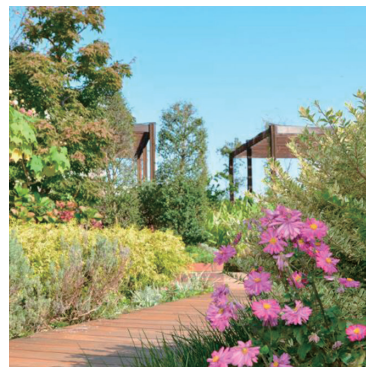


図書館だより

目次

| | | |
|--|----------------|---|
| デジタル・テキスト化という過渡期に直面する図書館 | ——白杵 陽 | 1 |
| 図書館の学修支援について—「教養実践演習」を一例として | ——高野 晴代 | 2 |
| 「泉ラーニング・スペース」活動報告 | ——中澤 恵子・吉原 三紀子 | 3 |
| 著作紹介 後藤敏行著『図書館員をめざす人へ』（勉誠出版） | ——後藤 敏行 | 4 |
| 「知っていますか」日本女子大学図書館について | ——浜口 都紀 | 5 |
| 日本十進分類法（NDC）について—日本女子大学図書館に おける請求記号の役割— | ——鈴木 学 | 6 |
| 協定大学図書館訪問記 その3 跡見学園女子大学図書館 | ——野澤 知美 | 7 |
| 平成28年度夏期スクーリング開館について | ——中澤 啓子 | 8 |



秋の泉フロートガーデン

デジタル・テキスト化という過渡期に直面する図書館

白杵 陽

数年前にボスニア・ヘルツェゴヴィナの首都サラエヴォを訪れたことがある。サラエヴォ事件はオーストリア皇太子夫妻が暗殺されて第一次世界大戦勃発のきっかけになったことで知られる。暗殺現場は同市を貫くように流れるミリャッカ川近くの通りで、その歩道には事件を記したプレートが埋め込まれている。事件現場からすぐ近くには図書館があり、現在では記念館になっている。

なぜ記念館になっているかという、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争のさなかの1992年8月、セルビア人民族主義過激派が図書館に焼夷弾を雨風の如く浴びせかけて貴重な蔵書が灰塵に帰したからである。スペイン出身のある作家は「アラビア語・トルコ語・ペルシア語の何千冊という手稿本が、永久に消えてしまった。このような形で失われた遺産は、歴史、地理、旅行、神学、スーフィズム、自然科学、天文学、数学に関する・・・書物にまでわたっていた」（フアン・ゴイティソーロ著、山道佳子訳『サラエヴォ・ノート』みすず書房、1994年、55頁）と記している。

ゴイティソーロが訪れた時には「焼夷弾を受けた天井の鉄骨は巨大な蜘蛛の巣のようになり・・・建物の内部の空間には瓦礫と梁と焼けた紙が大きな山を作っていた」状態だった。「その山の中の一枚の紙片を拾って見ると、それは古文書の分類カードだった。ある土地の歴史の実態を一掃し、その上に嘘と伝説と忘却からなる建物を構築しようというこの計算づくの蛮行の記念として」（同上書、58頁）彼はその紙切れを持ち帰った。私が訪れた時には、図書館はこの地のムスリムの歴史的记忆を抹殺しようとした野蛮な破壊行為を永久に残すために博物館として公開されていた。

私の訪問当時、サラエヴォは「ヨーロッパのエルサレム」というキャンペーンの下に観光客の誘致に努力していた。内戦という過去の反省から、正教徒（セルビア人）、カトリック教徒（クロアチア人）、ムスリム（ボスニア人）、ユダヤ人の民族・宗教・宗派間の共存を謳っていたのである。

書物史では、前近代のイスラーム世界は写本の長い伝統を誇っていた（小杉泰・林佳世子編『イスラーム 書物の歴史』（名古屋大学出版会、2014年）。ゲーテンベルク以来のデジタル革命が始まったその時に、サラエヴォでは写本という古い媒体が意図的に抹殺された。人類はいかに記憶（情報）を保存するのか。デジタル化という「第三の革命」の流れは不可避である。しかし、かつて手紙、日記、著作が手書きや印刷で残されたのと同じように電子書籍やメール等のデジタル・テキストでは残すことができない。今、過渡期にあって大学図書館も同じ課題が突きつけられている。

（図書館長・史学科教授）

図書館の学修支援について —「教養実践演習」を一例として—

高野 晴代

目白図書館4階に、「泉ラーニング・スペース」（西生田図書館では2階）がある。本学学生保護者の会である泉会からの支援を受け、昨年11月に新たに設けられた学修スペースである。そこには使用にあたって、次のような特徴が掲げられている。

- ◆可動式机・イスを備え、自由にグループ学修などができます。
- ◆各種機器類を備え、様々なスタイルでの学修ができます。
- ◆学部生、大学院生のラーニング・サポーターにレポートの書き方等の学修相談ができます。

この「ラーニング・スペース」は、現在多くの大学が「ラーニング・コモンズ」という学習（学修を含む）空間を設置し、ここ十年あまりの間にその数が飛躍的に伸びた学修スペースである。その背景には学士教育の質的転換、いわゆる能動的学修（アクティブラーニング）の推進がある。この点については、昨年の『図書館だより』（No.154）の平館英子前図書館長による記事に詳しい。授業とそれを支える学修の空間が一体となって、効果的な教育が行われるという仕組みである。

開設後一年、どのように運用されているか、具体例をあげ、報告したい。教養科目C群に「教養実践演習」という科目がある。創立120周年を迎えるにあたって、本学ならではの科目の新設を目的に考えられたものの一つである。当該科目について、教養教育等分科会などでは各学科の基礎的な演習をより特化した形態で運用できないかなど、検討を重ねた。そのまとめ役を5年ほど続けたため、本稿を担当させていただくことになった。創立者、成瀬仁蔵の掲げた「自学自動」の精神を活かし（当初の「教養教育演習」の科目名を成瀬の精神を活かす観点から、設置時に「教養実践演習」と名称変更したのはそのためである）、自身の考えを構築し、アカデミックライティングのスキルを身につけ、発表し、討論できる力を養うことを目指している。既述の各学科の基礎的演習であるが、全学科に設けられているとは言えず、できれば当該科目の全学的な施行が求められた。そこでまずは教養科目に設け、科目のあり方を検討しようとして始められたのが「教養実践演習」である。ジェネリックスキル（資料検索の方法・資料読解と要約する力・批判的読解能力・ディスカッションする力・レポートをまとめる力・プレゼンテーションをする力）教育の専門家である立教大学の河野哲也教授に担当していただき、方向性を検討することになったのが昨年度である。この科目では、批判的読解、自分の主張の構成と論証の仕方を学び、プレゼンテーションに向かって、資料を作成していくという課題が出されている。それをこなすために、大学院生がTAとなって、受講生を補助している。今年度前期は、「教養実践演習」担当の大学院生が、ラーニング・サポーターもつとめており、より具体的な文献検索、報告書の書き方などの学修相談を行うことができた。このように、教員とともに授業を支えることが図書館の学修スペースで行われ、文献の紹介、機器の使い方、さらにプレゼンテーションの方法などについてもわかりやすく示されているのである。

また「教養実践演習」のシラバス3回目は「図書館の利用法と情報検索方法と要約とコメント」とあり、実際に図書館にて参考係から説明を受けている。この教員からの依頼による授業時間内ガイダンスは、年度で相違はあるが、昨年度は目白27回422名、西生田22回389名が受講しており、このような努力を重ねることが、今後の教育・研究の支援となると思われる。新図書館もこうした目的を効果的に果たせるように現在様々な面から検討が加えられている。図書館がどれだけ学修支援をになうことができるか、今後の大学の目指すものと大きく関わっていくと思われる。

（日本文学科教授）

「泉ラーニング・スペース」活動報告

【目白】

本学学生保護者の会である泉会からご支援をいただき、2015年11月25日（水）図書館目白4階に「泉ラーニング・スペース（目白）」が誕生してまもなく一周年を迎える。2016年9月30日（金）までに通算3273名以上（2015年度1150名以上、2016年度上半期2123名以上）の利用があった。

座席数は52席（ラーニング・サポーター用2席含む）、面積は94.9m²であり、インターネット環境も整っている。自由にグループ学修などができるよう配された可動式机・イス・ホワイトボードは利用者アンケートで評価が高い。また、様々なスタイルでの学修ができるよう電子黒板、インタラクティブ機能内蔵プロジェクター（卓上投影用）、モニター付大型テーブル席など各種機器類が備えられており、利用方法については図書館2階カウンターで案内している。どの学修形態でも需要が高いのは貸出ノートパソコンである。

さらに、学科・専攻推薦を受けた学部生（上級生）、大学院生がラーニング・サポーターとして、月～土11：20～17：50の間、学修相談を受け付ける。今年度は目白全学科のサポーターが揃い、登録者数は20名（学部生8名、大学院修士課程（博士課程前期）9名、博士課程後期3名）となった。相談内容は多岐に渡り、勉強の進め方、レポートの書き方、専攻している分野についての助言、大学院進学のための研究計画書の書き方などが多い。サポーターの専門分野など時間割は当スペース内の掲示で確認できる。

イベントとして、教員によるミニ講座の企画も募集している。ミニ講座の開催情報は図書館ホームページ、JASMINE-Naviなどに掲示するので、ぜひご参加いただきたい。



ラーニング・サポーターへの学修相談

（館員・学修支援部会事務局 中澤恵子）

【西生田】

「泉ラーニング・スペース（西生田）」が「泉 多目的スペース（西生田）」（九十年館B棟2階食堂）とともにオープンしました。2016年6月21日（火）14時～14時40分に開所式が行われ、小山副学長、山田人間社会学部長、下田泉会副会長、住澤学修支援部会長、白杵図書館長よりご挨拶がありました。引き続き、図書館内「泉ラーニング・スペース（西生田）」の機器・設備（インタラクティブ機能内蔵超短焦点プロジェクターや4階グループ研究室室内電子黒板など）のデモンストレーションが行われ、泉会役員の皆様、学生、教職員の参加者約35名から熱い視線が注がれました。



泉ラーニング・スペース（西生田）全景

図書館に入っただけのところにカラフルな椅子が気になっていた学生の皆さん、そこが「泉ラーニング・スペース（西生田）」です。まずは椅子に座ってみましょう。自由に動かせるし、椅子の下に荷物は置けるし、後ろのホワイトボードも使えるし、手を動かしながらグループで考えを深めていくのにぴったりな場所です。こちらにも気になる新設ロッカーには館内で利用できる貸出ノートパソコンがあります。館内のJASMINE-Wirelessも整備されました。そして、ラーニング・サポーターが10月から登場しました。履修相談、勉強の進め方など、頼れる上級生に相談してみてください。

（館員・西生田図書館 吉原三紀子）

著作紹介 後藤敏行著『図書館員をめざす人へ』（勉誠出版）

後藤 敏行

憧れているだけでは分からない—。

司書・司書教諭になりたい人、必見！

皆さんは、図書館員がどのような仕事をするか知っていますか？また、どうすればなれるか知っていますか？

本書は図書館で働きたい皆さんを、基礎知識から実践まで、じっくりガイドします。図書館員へのインタビューも掲載、現場の声を届けます。図書館員になるためのガイドブック & インタビュー集の決定版！

上記は、出版社が本書の帯につけてくださったキャッチコピーです。過分な文言かとも思いましたが、本書の内容を表していると感じます。

周知のとおり、図書館とは、図書を中心に、記録された知識や情報を収集、整理、保存し、利用に供することを目的とする機関です。その図書館で働く専門的職員が図書館員です。司書や司書教諭などの呼称も日常よく使われますが、図書館員は、それらも含んだより広い概念です。

本書は、図書館員をめざす人のためのガイドブックであり、インタビュー集です。単なるマニュアル本ではなく、現職者の実情や、図書館員に求められる素養を明らかにしようとしている点が特色です。

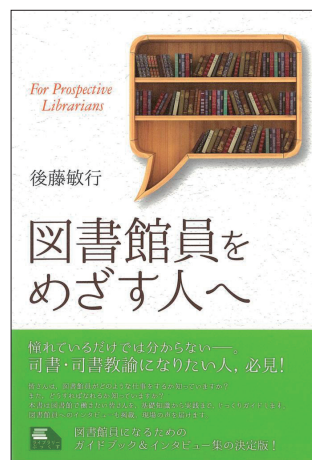
まず、第Ⅰ部ではガイドブック的に、図書館員の仕事や資格取得の方法、図書館に就職するには、待遇などについて解説しています。若手図書館員へのインタビューも行っています。

公共図書館、大学図書館、学校図書館など、図書館にはいくつかの種類があります。図書館員の仕事内容も同一ではなく、勤務する図書館の種類によって力点が違ってきます。第Ⅱ部では、そうした実態にさらに肉薄するために、公共、大学、学校、国立、専門の館種ごとに、現職の方々へインタビューを実施しています。大学図書館に関する寄稿も1本いただきました。

本書は、図書館員に関心を持ち始めた大学生や高校生から、本格的に図書館員をめざして採用試験の勉強中の方（図書館への転職をめざして勉強中の社会人の方も含みます）まで、広い読者層を想定しています。特に、図書館の正規職員をめざしている人に向けて書いた部分が多いです。同時に、第Ⅱ部では、素晴らしい仕事をされている非正規雇用の図書館員の方にもお話を伺いました。さまざまな話題に及びましたが、非正規雇用の厳しい現状についても率直にお話をいただいています。現職の図書館員の方に読んでいただいても、各インタビューは仕事を進めるうえでの参考や刺激になるかもしれません。

第Ⅲ部ではさらに、これからの図書館員像をテーマにインタビューを行い、そのうえで、各インタビューや寄稿を踏まえて、これから図書館員をめざす人に求められるものは何か、現職の方々の考えを整理しています。それらの素地・素養を身につけるにはどうすればよいか、検討してもらいます。

この記事を読んでくださっている貴方は、図書館員に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか。いかにもステレオタイプですが、本に埋もれてメガネをかけて、のような姿を思い浮かべるでしょうか。あるいは、この記事の読者には学生や図書館関係者のほか、図書館のヘビーユーザーの方もいるでしょうから、図書館の現代的・先進的な活動になじんでおり、上記とはまた違ったイメージを持っておられるでしょうか。本書を読んでいただくと、今まで抱いていた図書館員像が変



化することになるかもしれませんし、イメージどおりだと再確認するかもしれません。いずれにせよ、本書は読者の方に図書館員像の再考を促し、理解や関心の度合いを一段深めてもらうことをねらっています。

図書館員をめぐる方々のきっかけや動機づけ、指針のひとつとなれば幸いだと思いながら執筆した一冊です。
(家政経済学科講師)

2016年3月発行 勉誠出版 ii, 228p. *目白・西生田所蔵, 請求記号013.1-Got



「ご存知ですか？」日本女子大学図書館について

浜口 都紀

My JWULIS の意味は？

図書館ホームページ上で、現在借りている図書の期限や予約している図書の状況、図書館からのお知らせなどが確認できる My JWULIS。「JWULIS」は Japan Women's University Library Information System の略で、1989年、図書館にコンピュータシステムが導入された当時から使われている図書館システムの愛称です。

大学図書館には学術書しかないの？

本学図書館は、原則として研究・学習目的の資料を収集しています。しかし、もっと気軽に読める本もほしいという学生さんからの要望を受け、年に2回、「学生が読みたい本」の募集を行っています。2016年度の募集は終了してしまいましたが、これまでのご要望で入った本は図書館入口近くの専用棚に展示しています。募集の時期については、図書館のホームページ、ポスター、電子掲示板などでご確認ください。

西生田図書館閲覧席の椅子の色はなぜいろいろあるの？

西生田図書館設置時に、当時文化学科で美術史がご専門であった増渕宗一教授(現在は名誉教授)に、椅子の座面の色を選んでいただきました。窓際の個人席(えんじ)、閲覧室の大机(1~2階は濃いピンク、3~4階は薄いピンク)、グループ研究室(山吹色)で統一しています。それぞれ、グレイの床カーペットと調和する色合いになっています。

図書館の利用カードには、なぜうさぎがいるの？

利用カードの他、コピーカードや「利用のしおり」にもさまざまなポーズで登場しているうさぎは、1980年代、図書館の紹介文に挿絵としてデビューしました。当時、図書館に勤務していた職員が手掛けたものです。作者によれば、「興味津々の女子大生が図書館の回転ドアの向こう側に真理を求めて行くようなイメージ」で、描かれたものだということです。

「リポジトリ」って何？

リポジトリ(repository)は、収納庫、倉庫、貯蔵場所等の意味をもつ英単語ですが、学術リポジトリ、機関リポジトリ等という場合、研究学術機関がその教育研究成果を電子的に蓄積し、保存・公開するためのシステムを指します。本学では2014年4月より「日本女子大学学術情報リポジトリ」を運用しており、大学ホームページや図書館ホームページからリンクしています。現在、学部や学科の紀要、博士学位論文などを保存、発信しています。

博士学位論文は、2013年の学位規則改正により、インターネットで公開することが義務付けられました。他大学の博士学位論文を読みたい方は、その大学のリポジトリで探してみてください。

キャンパス統合時、図書館はどうなるの？

キャンパス統合に先立ち、目白キャンパスに新図書館が完成する予定です。まずは現図書館から新図書館への移転が行われ、キャンパスが統合する2021年には西生田図書館の資料が移動してることになっています。今後、詳しいスケジュールが決まれば、ホームページなどで周知してまいります。
(図書館課長)

日本十進分類法（NDC）について—日本女子大学図書館における請求記号の役割—

鈴木 学

日本十進分類法のはなし

日本国内のほとんどの図書館で使われている図書分類法が「日本十進分類法（以下「NDC」）」である。図書分類法とは、ある資料の中心的な内容である主題を記号で提示するための規則であり、「NDC」はその一つである。「NDC」は2014年に最新の第10版が刊行されている。

「NDC」の構成は、世の中の知識全体を大きく分けた10のクラスからできあがっている。その10のクラスには近現代の多様な学問分野が配置され、10種類の数字から始まる記号により表される。クラスのそれぞれは、1から始まる「哲学・心理学・宗教」、2から始まる「歴史・地理」、3から始まる「社会科学」、4から始まる「自然科学」、5から始まる「技術・家政学」、6から始まる「産業」、7から始まる「芸術」、8から始まる「言語」、9から始まる「文学」、0から始まる「総記」である（総記では9つの区分に当てはまらないものや9つの区分を包括するものを取り扱う。例えば、図書館学、博物館学、ジャーナリズムなど）。

そして付与される分類記号は3桁以上の数字で表示されるため、数字の序列を用いることができる。ただし、この数字自体は記号として用いられているため値の大小の関係はない。分類記号3桁部分では、数値的に大きいほどその内容は詳細になり、最初の3桁が同じであれば、分類記号が長いほどその内容は詳細になる。例えば、「デイケア・センター」という主題の本であれば分類記号は「369.263」と提示される（「NDC」では300社会科学-360社会-369社会福祉-369.2公的扶助-369.26老人福祉-369.263老人福祉施設とたどることができる）。

図書館の請求記号のはなし

日本女子大学図書館では、一般図書、雑誌、主に調べ物に使われる参考図書、通常の書架には入らない大型本、本文が日本語か欧米語か、など資料の性格により配置場所を分けた上で、それぞれに配置される資料を請求記号の順序で並べている。請求記号とは、別置記号（ないものもある）と数字で表示される分類記号（小数点を含む場合もある）と英字で表示される著者記号（数字と組み合わせられる場合もある）と巻数字の順序番号（一部の資料）との組み合わせであり、資料一冊ずつに割り当てられる。資料はそれぞれの配置場所においてまず分類記号の数値的順序で並べられ、次に同じ分類記号の中で著者記号のアルファベット順で並べられている。

請求記号の構成要素である分類記号は、本文が日本語で表記されている資料では「NDC」を用いて表され（欧米語には別の分類法）、著者記号は、その本の著者あるいはそれに代わる要素を英字で表している。その結果請求記号順に資料を並べることにより、配置場所が別であっても、同じ分類記号に向かうことで同じような内容の資料にたどり着くことができるようにしているのである。

図書館の開架式のはなし

日本女子大学図書館では、利用者が棚に並んでいる資料を自由に手に取ることができる。図書館用語で「開架式」と呼ばれる運営方法である。蔵書検索の結果から目的の資料に向かい、実際に手に取ることと内容をより把握することができ、読書意欲に影響する本の「感触」を確かめることもできる。ちなみに「閉架式」という書架の運営方法もあり、二つが代表的なものである。

「開架式」では、図書館でどのように資料を並べているかが重要なポイントである。分類記号に従って資料を並べることは、学問分野の区分にしたがって資料を棚に集めることでもあり、分類記号に主題ガイドの役目をさせていることになる。つまり、検索結果から向かったその本の周囲には同じような主題の本が一緒に並んでいるのである。どの分類記号が何の主題を表しているのか確かめるには、「NDC」の区分を通覧すればよいが、自分の学問的関心に該当する分類記号を一度覚えれば、次からはその分類記号を目指すことで新たな資料の追加を見ることができる。

（館員・西生田図書館）

協定大学図書館訪問記 その3 跡見学園女子大学図書館

野澤 知美

日本女子大学と協定を結んでいる大学の一つである、跡見学園女子大学（文京キャンパス）の図書館に行ってきました。

私は今回初めて協定校の図書館を利用したので少々不安がありましたが、利用をしてみると日本女子大学の図書館とはまた違った本が揃っており、充実した時間を過ごすことができました。私が目にした中で印象に残った点を3つ紹介したいと思います。

1つ目は書庫1階にある文書庫です。ここには夏目漱石、芥川龍之介、宮沢賢治、森鷗外、岡本かの子、野上弥生子のコレクションや貴重資料が保管されています。本だけではなく、なかなか保管されていない雑誌や、参考DVDがあるため6人の有名作家について詳しく学ぶことができます。

2つ目は百人一首の資料です。短期大学から資料を引き継ぎ、授業でも百人一首が導入されていることから図書館に百人一首に関する資料が多数あります。また、跡見学園女子大学の図書館のホームページの百人一首コレクションというところからも百人一首の資料を閲覧することができます。

百人一首の他にも図録がたくさんあり、芸大生も利用しているそうなので専門的な資料が閲覧できると思います。

3つ目は第三閲覧室にある学生が書店でセレクトしたブックハンティング本です。本には学生が作成したPOPがついており、私も読んでみたいという気持ちが湧きました。日本女子大学でも学生が読みたい本を毎年募集していますが、他大学の学生がどのような本を読んでいるのか見てみると新たな発見があるかもしれません。

また、跡見学園女子大学の学生が主体で活動している学生ボランティアの方が、図書館の展示を企画し、サービスカウンターの近くで展示を行っています。図書館に立ち寄った際に展示も見てみると面白いと思います。現在は宮沢賢治をテーマとした展示がされています。

みなさんもぜひ協定校の図書館に足を運び、図書館や本の魅力に触れてみてはいかがでしょうか。
(社会福祉学科 4年次学生)

跡見学園女子大学図書館について

跡見学園女子大学は本学同様2つのキャンパスを持つ。図書館もそれぞれにあり、ひとつは今回ご紹介した文京キャンパスの茗荷谷図書館、もう一つは埼玉県の新座キャンパスにある新座図書館である。協定により、本学の学生・教職員はいずれの図書館でも資料の閲覧と複写ができる。また、他キャンパス所蔵資料を取り寄せて閲覧することもできる。利用の際は、他の協定校と同様、必ず学生証（または教職員証）を持参していただきたい。

文京キャンパスは、丸ノ内線茗荷谷駅から徒歩2分、有楽町線護国寺駅からは徒歩8分だが、本学の目白キャンパスからは、文京区のコミュニティバス「B-ぐる」の「目白台・小日向ルート」の利用が便利である。「日本女子大前」停留所から「跡見女子大正門前」まで、約10分で到着する。

跡見学園女子大学図書館との協定は2013年スタートで、協定校の中では一番新しく締結されたものである。図書館だより154号の記事、「図書館相互利用協定の今」でもご報告したとおり、まだ利用は多くない。今回の紹介記事を読んで、利用してみたいと思う方が増えることを願っている。

平成28年度夏期スクーリング開館について

東日本大震災から5年経ちましたが、4月には熊本地震があり、あまりに各地で地震や台風による雨風による被害が多かったため、今年のスクーリングの人数に影響が出てしまうのではないかと心配しておりましたが、やはり初めて入館者4000人を切ることになり、スクーリングの全ての数値が昨年度を下回る結果となりました。被災された方々が早く日常を取り戻し、学習を再開できる日々が来ることを心よりお祈り申し上げます。



通信教育課程の正科生はJASMINEアカウントで夏期スクーリング期間中もMy JWULISへログインし、1回だけ貸出更新や予約ができるようになり3年目。貸出冊数も夏期スクーリング期間は一般図書の夏休み貸出5冊に加え、通信教育図書室(図目通信)の図書2冊を7日間借りることができます。予約がなければMy JWULISで1回貸出更新ができますので、地方に住んでいらっしゃる方も図書を借りてやすくなったのではないのでしょうか。通信生から「せっかく大学図書館に来たのだから、図書をできるだけ借りて帰りたい」という言葉を聞き、図書館スタッフとしてはうれしく感じました。

夏期スクーリング開館の利用状況

| 年度 | H28 | H27 | H26 |
|----------------|-------|--------|-------|
| 開館日数 | 24 | 24 | 24 |
| 入館者数 | 3,675 | 4,719 | 4,186 |
| 1日平均 | 153.2 | 196.7 | 174.5 |
| 最高 | 265 | 676 | 304 |
| 最低 | 75 | 123 | 121 |
| 受講者数 | 744 | 769 | 836 |
| 登録者数 | 93 | 101 | 175 |
| 1日平均 | 3.9 | 4.2 | 7.3 |
| 更新者数 | 178 | 247 | |
| 来館率 | 36.5 | 32.2 | |
| 貸出冊数 | 972 | 1,140 | 1,340 |
| 1人当たり | | | |
| 1日平均 | 40.5 | 47.5 | 55.9 |
| 最高 | 65 | 93 | 114 |
| 最低 | 19 | 23 | 25 |
| 貸出日数 | 24 | 24 | 24 |
| 複写枚数 | 7,628 | 10,774 | 9,003 |
| 1日平均 | 318 | 449 | 375.2 |
| 一般学生・教職員その他の貸出 | 1,243 | 1,671 | 1,421 |
| 1日平均 | 51.8 | 69.7 | 59.2 |

すでに後期の授業が始まっています。まだ夏休み貸出図書を返却していない方がいます。他の方のために早くご返却くださるようお願いいたします。返却はゆうパック・宅急便など(控えの残るもの)でも受け付けています。また、通常期にはOPAC講習会も随時受け付けておりますので、利用のしかた等ご不明な点は気軽にカウンタースタッフにお声がけください。(館員・閲覧係 中澤啓子)

参考係利用状況(質問処理件数)

| 年度(日数) | H28(24) | H27(24) | H26(24) |
|-------------|---------|---------|---------|
| 一般学生・教職員 | 49 | 35 | 48 |
| スクーリング生・その他 | 31 | 38 | 16 |
| 合計 | 80 | 73 | 64 |
| 1日平均 | 3.3 | 3.0 | 2.7 |

 前号(No.156) p.4 掲載の「2015年度実施した利用者向け講習会」のうち、「教員からの依頼等により授業時間内に実施(目白)」の数値を修正します。(誤)計26回414名→(正)計27回422名
 また、p.4掲載の編集後記最終行、平成29年度は28年度の間違いでした。

編集後記 西生田キャンパスでも泉ラーニング・スペースの活動がスタートした。今後も定期的に利用の様子を報告していきたい。高野先生からは図書館の学修支援について、実際の授業の例からご報告をいただいた。本学学生による協定大学図書館利用レポートは、今号でひと区切りとなる。これをきっかけに、利用が増える事を願っている。巻頭写真は秋の気配を増した泉フロートガーデン(百年館低層棟屋上)の風景。(浜口)